

## 令和元年度 福岡市史編さん委員会議事録

1 実施日時 令和2年2月5日（水）13時15分～14時00分

2 実施会場 福岡市議会棟7階 第1・2議員応接室

3 出席者

(1) 出席委員9名

中村英一	委員長	(福岡市副市長)
有馬学	副委員長	(九州大学名誉教授, 福岡市博物館館長)
川原正孝	委員	(福岡商工会議所副会頭)
川崎隆生	委員	(西日本新聞社相談役)
柴多一雄	委員	(長崎大学名誉教授)
宇田川宣人	委員	(福岡文化連盟理事)
林君子	委員	(福岡市七区男女共同参画協議会代表)
笹山守人	委員	(福岡市自治協議会等7区会長会代表)
天本俊明	委員	(福岡市経済観光文化局理事)

欠席委員3名

橋田和義	委員	(福岡市議会経済振興委員会委員長)
小野田勝則	委員	(福岡市総務企画局長)
星子明夫	委員	(福岡市教育長)

(2) 事務局 12名

博物館事業管理部長, 博物館副館長, 史編さん室長 外

4 議事

(1) 令和元年度 福岡市史編さん事業実施状況報告について

(2) 令和2年度 福岡市史編さん事業実施計画(案)について

5 議事録

(1) 開会

- ・事務局の司会により開会
- ・委員長の開会あいさつ
- ・委員長を議長として議事進行

(2) 議事1「令和元年度 福岡市史編さん事業実施状況報告について」

(委員長) 議事1について事務局より説明を。

(事務局) 資料及び参考資料に基づき説明。

(委員長) ただいまの事務局の説明について、ご質問があればお願いします。

- ・事務局説明に対し特に質問、意見なし
- ・議事1は委員の承認を得た

(3) 議事2「令和2年度 福岡市史編さん事業実施計画(案)について」

(委員長) 続いて、議事2について事務局より説明を。

(事務局) 資料に基づき説明、会計年度任用職員制度の導入について説明

(委員長) ただいまの事務局の説明について、ご質問があればお願いします。

- ・事務局説明に対し特に質問、意見なし
- ・議事2は委員の承認を得た

(4) その他意見交換

(委員長) せっかくの機会であり、市史に関するご質問などがあればお願いします。

(委員) 予算は公開していないのか。今年度と新年度の予算は概算でどのくらいか。

(事務局) 本年度予算は概算で約5,300万円。

(委員) 新年度は。

(事務局) 新年度分は議会審議後でないと公表できないが、本年度並みを要求している。

(委員) 関係者100人ということだが、構成はどのようになっているのか。常勤で100名ということではないのか。

(事務局) 専門委員は各部会大学の先生など学識経験者、そのほか10名程度の調査委員で構成され、6部会で100名を超える方々にご協力いただいている。皆、常勤ではない。

(委員) 事務局や担当嘱託員は、この100名に入っていないのか。

(事務局) 事務局は学識ではないが、編集委員会の事務の取りまとめとして関わっている。嘱託員は市職員であり、直接、編集委員会のメンバーとはなっていない。

(委員) 印刷製本費は5,300万円の中に入っているのか。

(事務局) 印刷製本費は予算の中に入っている。

(委員) 今回の講演会を見せてもらった。超満員で大盛況だったが、過去の講演会で人気のあったもの、なかったものなど、傾向はあるのか。

(事務局) 考古学や対外交流の盛んだった時代のものが人気がある傾向にある。全体的に年配の参加者が多いのだが、活字メディアのワークショップは若い人に多く参加いただいた。

(委員) 新年度の講演会は内容が未定とのことだが、資料にある考古、東部遺跡関連ではないのか。

(事務局) 例年、新刊関係での講演を企画するため、そのような標記にしているが、講演者や詳細なテーマなどについては新年度に入って協議して決めていく。

(委員) 文化財保護シンポジウムについて、これは大切なことだと認識している。写真では参加者が20~30名程度のように見えるが、誰をターゲットとして開催されたものなのか。

(事務局) 実行委員会形式で行われており、会費を集め手弁当で行われたもの。市や県の職員や、九大の先生、記者等が集まり、人数的には振るわなかったが、熱い内容であった。

(委員) おそらく内容的には濃かったと思われる。同じ様に文化連盟のこれまでの取り組みについて、市民の活動と行政との関係という視点で再認識できるような、シンポジウムの形などで一緒にできればと思うので、よろしく願います。

(委員) 西日本文化への掲載記事だが、昔から関係があったのか。

(副委員長) 南区についての地域特集を出したいとお話があり、市史編さん室向きのお話であったため執筆協力した。他にも関係の学芸員に協力してもらい、ほぼ丸ごと市がジャックしたような形になった。

(委員) 学芸員はどのくらいいるのか。

(事務局) 博物館に15名おり、美術館に9名、アジア美術館に6名。また、図書館、文化財活用部などに文化学芸職が、文化財活用部には別に文化財専門職が40名ほど在職している。

(委員) 図書館の司書は、何でも手助けしてくれてすごく助かったと聞いた。そのよう

な知識を持った人たちがざっと100名ぐらいいるといふことか。これは他都市と比べて多いのか少ないのか。

(事務局) 少なくはないと思う。

(委員) 自治協議会代表としてお尋ねしたい。博多は山笠は取り上げられるが、今回、博多松囃子が国の重要無形民俗文化財に指定されることになったが、どのように取り上げていってもらえるのか。

(事務局) 博多松囃子については、どんたくと併せて盛り上げていきたい。

(委員) 博多松囃子は今後、文化財保護行政のなかで周知に努めてほしい。

(事務局) 機会を見つけて文化財の保存、継承については周知に取り組んでいく。

(委員) 博多は観光を頑張っているが、福岡の観光面においては、これといった目玉がないので、福岡城跡に天守閣とか建物が復元できるといいのだが。

(事務局) 城の復元は確実な資料に基づき取り組まなければならないため、難しい点が多くあるが、現在、潮見櫓を復元する方向で計画を進めている。

(副委員長) 福岡城も鴻臚館も国の指定史跡であり、勝手に復元ができない。建築の図面や当時の外観が分かる写真などを基にした、3次元の完成度の高い復元図などがないと許可されない。昭和30年代に適当な図面でコンクリート造りの復元天守閣がブームとなったが、資料的な価値もなく残念だった。

(委員長) 他になければ、本日の市史編さん委員会の議事を終了する。

(5) 閉 会

・事務局の司会により閉会